

いっそう元気！東近江

2月1日（木）、今回から名称も新たに「第4回 地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江」を開催しました。

前半の話題提供では、地域支え合いコーディネーターの活動報告をはじめ、同日に、東近江市役所から発行された『広報ひがしおうみ 2月号』の生活支援に関する特集について紹介。住民の暮らしの困りごとを手助けする「たすけあい中野」やセブンイレブン五個荘清水鼻店による移動販売の取り組み、「いっそう元気！ひがしおうみ」の様子が掲載されました。

後半は、テーマ別懇談として、これまでの話し合いで出ていた話題をもとに、取り組みを具体化させていくためのアイデアを参加者同士で出し合い、共有しました。



■テーマ別懇談①「移動（移送）支援の実現に向けて」

—移動支援をサポートできる人が必要—

- ・たすけあい中野、生活支援サポーター絆、移送ボランティア輪和、ほんなら堂など、移動を支援できる活動はあるが、活動してくれる人の確保が課題。
- ・活動したい人はいると思うけれど、一歩を踏み出せない。送迎は、命を預かるため、中には躊躇する人もいる。
- ・「運転が苦にならない」という人に、活動の仲間に入ってもらえると良い。



—どういう人を対象に支援するか—

- ・「本当に困っている人」とそうでない人の線引きの難しさがある。
- ・バスやタクシーなど、既存のサービスでは対応が難しい人（移動に介助や付き添いが必要、経済的困窮など）をひとつの目安にできないか。
- ・住民同士の助け合いでは、線引きが曖昧な方がうまくいく場合がある。
- ・依頼者本人の状態や周囲の人とのつながりも見ながら考えていくことが大事。

—料金設定をどう考えればよいか—

- ・ほんなら堂やサポートセンター加楽では、買物支援の付き添いには1,000円必要。対応してくれたサポーターには報酬を渡している。持続可能な形を探るための料金設定。
- ・活動するモチベーションは人によって様々。報酬がもらえる方が良いという人もいる。
- ・移動サービス業界との兼ね合いも考えておく必要がある。



—福祉施設・事業所の車を借りての移動支援—

- ・移動支援をする時は、自分の車で行きにくいという声もある。福祉施設や事業所の車を、使用しない時間帯に地域へ貸出すことが、法的に問題なければ、協力できる事業所もあると思う。

■テーマ別懇談②

「“自立”を支援することを広げるために～当事者・支援者の意識を変えるためには～」



—自分がどうしたいかを伝えることが、思いを尊重した支援につながる—

- 地域包括支援センターに入ってくる相談の中には、本人が自分の意思・判断を伝えられない状態の場合があり、支援者として、本人の思いをどのようにくみ取り、支援をすればよいか迷うことがある。
- 認知症の方の中には、幼少期や青春時代など、過去の世界観の中で生きている方もおられる。しかし、家族は、本人の幼少期や青春時代の情報を知らないことが多い。知っておくことで、本人の生きている世界観に合わせた対応ができ、症状の進行を防ぐひとつの支援になるのではないかな。
- 支援する人も、情報が増えると、相手への声かけの仕方や、困った時に誰に相談したらよいか分かることもあり、自分にできることも増えてくるのではないかな。

—自分の意思を示す「みらいシート」—

- 「みらいシート」は、自分の情報が載っているプロフィール帳のようなイメージ。
好きなもの、好きな場所、趣味、口癖など、その人自身のことがわかるようなものになればよい。
- 入院編、介護編、幼少期・青春編など、いくつかのカテゴリーをつくることで、実際その状況になった時に、その人が何をしてほしいのかということが明確になる。
- つどいの場やサロンなどの、みんなが集まる場で、ワイワイガヤガヤしながら、「みらいシート」を記入する作業をするのも面白いのではないかな。

＜みらいシートの例＞

The image shows two examples of 'Future Sheet' forms. The top one is titled '入院・手術となった場合' (In case of hospitalization/surgery) and includes fields for name, address, and a list of preferences such as 'I want to be treated in a hospital', 'I want to be treated in a hospital with a doctor I know', and 'I want to be treated in a hospital with a doctor I know'. The bottom one is titled '在宅療養となった場合' (In case of home care) and includes fields for name, address, and a list of preferences such as 'I want to be treated at home', 'I want to be treated at home with a doctor I know', and 'I want to be treated at home with a doctor I know'.

—「みらいシート」を誰に向けて発信するのか—

- 50～60 歳代で、会社を退職した人や家族の介護を担っている人、自分の健康面に不安を感じるようになってきた人などにはたらきかけてはどうか。
- 家族の介護をしている人は、介護が必要な状態になったことを受け入れられないままの人も多い。未来シートに向き合うことで、自分や家族のことを振り返り、心の整理をするきっかけになるといい。
- 定年はひとつのタイミング。第 2 の人生として、前向きに取り組めるのではないかな。



それぞれのグループで出ていた意見やアイデアの中には、すぐにでも取り掛かれそうなこともあれば、もう少し情報収集しながら議論を深めた方がよいものもありました。今回の懇談内容を整理し、次回以降の協議につなげていきたいと思えます。

